

生化学分野の概要

研究内容紹介

生理活性脂質は、膜のリン脂質から刺激に応じて産生され、近傍細胞の特異的受容体(GPCR)に作用してシグナルを伝えます。炎症、がん、神経伝達等のメディエーターとして重要です。(右図参照)

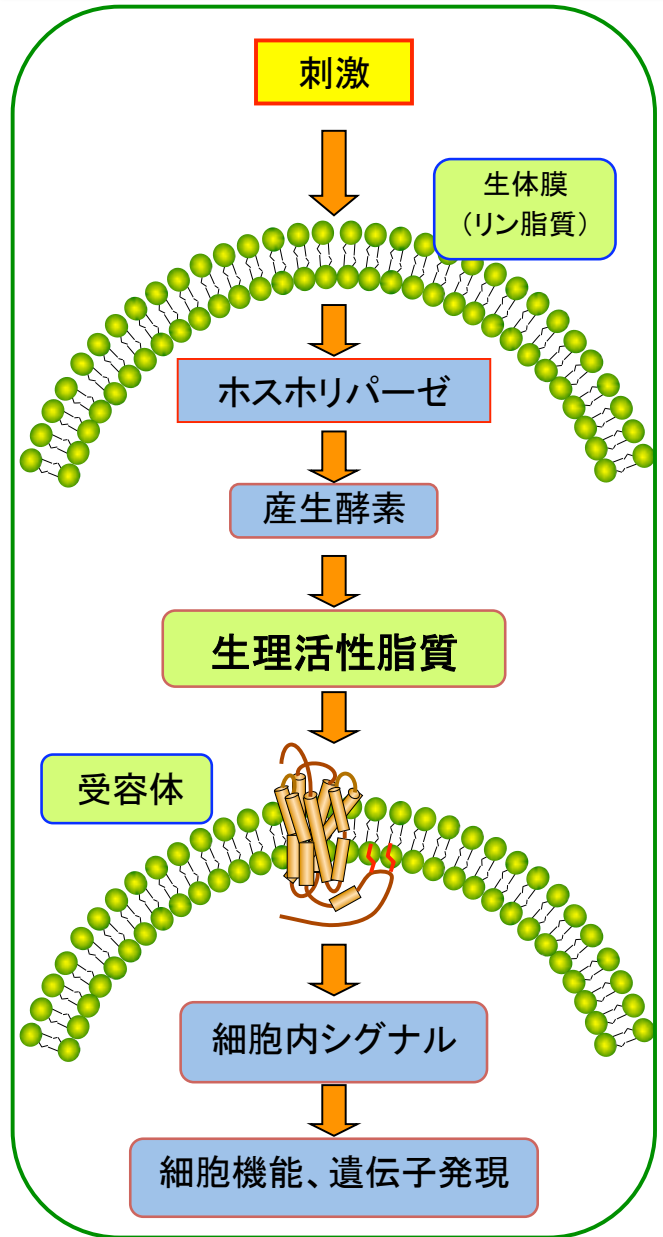
当分野では、生理活性脂質の生体機能の解析を目標として、リン脂質代謝やGPCRからのシグナル解析を中心に研究を進めています。

具体的な研究課題例

- G2Aを介する情報伝達系の解析とその意義の解明
- ロイコトリエン産生酵素と受容体を介する細胞内情報伝達
- 脳内生理活性脂質の産生酵素の精製、クローニング
- リン脂質分解酵素の生体機能解明
- ショウジョウバエを用いたPLDの機能の解明
- セラミド代謝とアポトーシス
- 生理活性脂質の定量法の確立
- 質量分析計を用いたプロテオーム解析

当分野は、群馬大学グローバルCOEプログラム「生体調節シグナルの統合的研究」の推進拠点の1つです。

研究テーマ:生理活性脂質の産生と作用



研究手法には、生化学、分子生物学、細胞生物学等を用いています。全ての大学院生が、細胞、DNA、タンパク質、脂質を扱うことが出来るように配慮しています。

連絡先

教授: 和泉孝志 (Takashi Izumi) 、メール: takizumi@med.gunma-u.ac.jp
電話: 027-220-7940、場所: 基礎医学棟2F、部屋番号: MA2-39